

五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート

2022年12月16日

Grocery shoppers look to Expired Food to Save Money

節約の為、賞味期限切れ間近の食品に注目する消費者

記録的なインフレが続く米国で昨年と比較し、食料品価格は約13%上昇しています。

そのため日々の食生活は、食費節約を求める傾向になっています。

食品流通の分析会社 Food Dive が9月におこなった調査によると対象者の60%の消費者がお手頃価格を理由に賞味期限間近の食品を購入し、また46%が印字された賞味期限を完全に無視していると回答しました。

食料品のディスカウントストアは既に新しい業態ではありませんが、このレポートにはなんと今年は16.6%の人が食品のバーゲンストアで購入するようになったという驚くべき統計が発表されました。



イリノイ州シカゴにあるディスカウント食料品店 Continental Sales Lots 4 Less のオーナーのロン・ロハス氏は「40年間、賞味期限や消費期限切れ間近の食品を販売してきましたが売上拡大で店内の改装の必要性に迫られました。最近6~8週間での客足増加に対応するため、レジのレーンを2列追加しましたが、

時折 200 フィート（約 60 メートル）ほど行列が続いている光景を見かけます。その状態は 2022 年 9 月から更に増えてきたようです。」と述べています。

パーソナルファイナンス調査やアドバイスを行う WalletHub が行った直近のオンライン調査によれば、米国人の 68% が毎月の食料品購入費にインフレの影響を最も強く感じていると答え、食品バーゲンストアでの購入は、多くの人が取り入れて行くべき傾向であると言えます。

これらの店舗では最大「賞味期限が迫っている商品は通常小売価格の半額以上の割引を設定し、”Phenomenal Pricing (驚異的な価格設定)”と呼んでいます。賞味期限が切れたコーナーでは、75%、80%、90% オフということもあります。そこまで割り引いた商品は”Stupid Price(バカ売れ価格)”と名付けています。」

ロハス氏は、続けて「賞味期限間近の値引き食品購入は、節約対策としてだけではなく別の理由もあります。賞味期限切れのラベルは食品の品質を決めるものではないのです。自分の店で販売した商品の品質はすべて保証しますし、返品されることはまずありません。一般的に期限切れの粉ミルクやベビーフードのようなものは販売しないことにしています。それは間違いなく違法だからです」とも言及しました。

米国農務省の HP では『家庭で保存している最中に期限が過ぎても腐敗が明らかになるまで適切に扱えば製品は安全で健全なはずだ』とされています。

同サイトではさらに『食の廃棄を減らすためには食品につけられた日付は品質のためのものであり、安全のためのものではないことを消費者が理解することが重要です』と記述されています。

リサイクルトラックシステムズの調査によると、80% 以上のアメリカ人が賞味期限表示を誤解して、良い食品を廃棄しているそうです。



私の住むカリフォルニア州でこのところ店舗を増やしている食品のバーゲンショップと言えば 1946 年創業の Grocery Outlet Bargain Market です。



消費期限が近付いたナショナルブランド商品を中心に最大 70%オフで販売しています。

また過剰生産や企画商品等パッケージ変更等の見切り商品も扱っており、食品高騰が続く昨今、消費者の支持が高まっており、カリフォルニア州を始めとして 8 州で出店も加速し、現在は約 430 店舗を展開中です。

このチェーンはフランチャイズ方式なので店舗毎、地元の町に住む人がそれぞれオーナーになっており、棚に並ぶ商品も異なるのでその店でしか売っていない商品も沢山あります。

しかもナショナルブランドが中心なので、時には破格値で高級食品を購入する事も多々あります。

いわゆるトレジャーハント的で魅力的な体験型ショッピングなのです。特に私が好きなのはワインとクラフトビールのコーナーです。私には、生粋の関西の血が流れているせいか、お安く買えた時は必ず家に帰るや否や家族に向かって「これなんぼやったと思う？あててみなはれ」と尋ね、いかに良いものを安く買えたかを自慢致します。

私にとってその話を終え、実際に口にして満足するまでが体験なのです。

先月の日本出張中に御徒町にグランドオープンしたディスカウントストア多慶屋の新館 Takeya1 とサミットストアを訪れました。

多慶屋といえば上の界限の最強レベルのディスカウントストアとして海外の方にも有名ですが、インフレの米国から来た私にはお菓子を始めた食品の安さには心底驚きました。

そしてこの店舗の地下1階と2階にはサミットストアが入っている形態も新しい取り組みだと思いました。

この地域で生活する人々にとってディスカウントと一般的スーパーマーケットがコラボすることで、大容量商品と生鮮食料品、ベーカリー、総菜等をワンストップで購入できるよう取り組んだのかな と思いました。

今年も残すところ僅かとなりましたが、日本の方々はコロナで渡米が中々できない間、米国の小売業は相変わらず凄まじいスピードで変革を遂げております。

来年はどんどんその変化をリアルで体験しに米国にいらしてください。空港で五十嵐お待ちしております。

